

南硫黄島周辺海底火山等の 最近の活動について

海上保安庁水路部

本会報第42号に報告した後の、南硫黄島周辺海底火山及び南方、南西諸島の活動状況は、以下のとおりである。

ここで報告する期間は、1988年(昭和63年)10月25日から1989年(平成元年)1月19日までである。

1. 福徳岡ノ場 北緯 24度17.0分
東経 141度29.1分

第2表に示すように、この期間はその規模の大小の差はあるが、変色水が認められている。

第2表 福徳岡ノ場の火山活動の経過

Table 2. Volcanic activities of the Hukutoku-Oka-no-Ba.

年月日	観測結果	出所
1988. 10. 25	長さ1M, 幅300mコバルトブルーの変色水が南南西方向に流出しているのを認めた。	海自航空機
12. 13	南硫黄島から60度方向1M~6Mに幅100mの変色水を認めた。	
12. 13 ~ 14	福徳岡ノ場において、自航式ブイ「マンボウ」により海底地形調査を行った。最浅水深は14mであった。	海保測量船 「昭洋」
1989. 1. 12	北緯24度18分, 東経141度28分の地点から80度方向に、長さ3200m, 幅900mにわたって変色水を認めた。西端は青く、そこから約300mまでは、黄及び黄緑色をしており、それより東は薄い黄色であった。	海自航空機
1. 19	福徳岡ノ場において、白色の海底らしきものが確認された。位置は、北緯24度17.5分, 東経141度29.5分(測位オメガ)この地点を湧出点とし、変色水は120度方向に長さ0.5M, 幅0.3Mの広がり有し、中央部は濃い黄緑色であった。	海保航空機

防衛庁硫黄島基地の情報によれば、変色水の広がり、色調ともに過去1年間大きな変動はないとのことであった。

* Received Feb. 27, 1989

2. 福神海山	北緯 21度56分	日光海山	北緯 23度04.5分
	東経 143度28分		東経 142度18.5分
南日吉海山	北緯 23度30.4分	海徳海山	北緯 26度07.3分
	東経 141度54.3分		東経 141度06.1分

第1表に示すように、この期間は上記の海底火山に変色水は認められなかった。

第1表 福神海山、日光海山、南日吉海山及び海徳海山の火山活動の経過

Table 1. Volcanic activities of the Hukuzin Seamount, the Nikko Seamount, the Minami-Hiyosi Seamount and Kaitoku Seamount.

年 月 日	観 測 結 果	出 所
1988. 10. 25	変色水を認めず。	海自航空機
12. 13	"	"
1989. 1. 12	"	"
1. 19	"	海保航空機

3. 伊豆大島

1988年11月25日 伊豆大島周辺には、9ヶ所の変色水が認められた。筆島を除く他の変色水は、いずれも薄かった。筆島の北側には茶褐色の変色水が認められた。島の西側海域は風浪のため、また、火口底は水蒸気のため確認できなかった。(海保航空機)

1989年 1月18日 変色水は10ヶ所に認められた。風早崎と筆島付近の変色水は濃い茶褐色であったが、他はいずれも色が薄かった。三原山々頂は雲におおわれて、火口等の確認はできなかった。(海保航空機)

4. 新島ほか(南方諸島)

1988年11月25日 新島
島の海岸線全体を覆うような乳白色、青白色の変色水が今回も認められた。(海保航空機)

1989年 1月18日 新島
変色水は前回(11月25日)観測と同様に、乳白色、青白色で全島を覆うように分布していた。変色水の色調は、やや薄まったように感じられた。(海保航空機)

- " " 神津島
 最近神津島近海では地震が多発しているため、今回はじめて観測を実施した。変色水は6ヶ所認められ、多幸湾西側の変色水が顕著であった。(海保航空機)
- " " 須美寿島
 島の西側に変色水(青緑色)を認めた。(海保航空機)
- " " 鳥島
 島の東側に変色水(青緑色)を認めた。(海保航空機)
- " " 西之島
 西之島新島は南側海岸線の侵蝕が進み、北側海岸線については堆積が続いているようである。新島の東側と旧島の西側に変色水(黄緑色)が認められた。(海保航空機)

5. 南西諸島

- 1988年10月26日 桜島新島
 島周囲全体を薄緑色の変色水が覆っていた。(海保航空機)
- 1988年10月27日 薩摩硫黄島
 硫黄岳の噴煙は少なかった。島の東側海岸全体に黄色及び白色の変色水が認められ、幅は約200~300mであった。この中で平家城付近に高温部が認められることから、この付近が変色水の湧出点と思われる。島の南側の港内に赤色の変色水が全面に見られ、周囲の海水温度より相当高温である。(海保航空機)
- " " 口永良部島
 新岳山頂火口は、完全に静まって噴煙は見られなかった。割目火口も完全に静かで噴煙は見られなかった。変色水は南北の港内に見られたが、あまり濃いものではなかった。(海保航空機)
- " " 諏訪瀬島
 山頂火口は現在も活動中で噴気が多く、ときおり白色噴煙の発生が認められた。火口周辺にも数ヶ所の噴気が認められた。変色水は島の東側に2ヶ所、北と南に各1ヶ所認められたが、いずれも色は薄いものであった。(海保航空機)
- " " 横当島
 火口底には若干の草木が認められ、最近活動していないことが予想される。島の接合部の南と北に薄い変色水が見られた。(海保航空機)
- " " 硫黄鳥島
 新火口周辺には噴気口が多数認められたが、噴煙は少なかった。その周辺には変色した溜池があり、酸性の茶色い水が溜っていた。(海保航空機)

(注) 「海自航空機」とは海上自衛隊第四航空群所属航空機P-3C

「海保航空機」とは海上保安庁所属航空機YS-11